令和６年度 学校経営報告

八王子市立宇津木台小学校
校長　宇野 賢悟

Ｉ　今年度の取組と自己評価（〇成果●課題）

①「確かな学力」の定着

〇令和６年度は算数科を中心に研究を行い、教員の授業力向上を図ることができた。

●市学力調査における基礎学力の確実な定着については、東京ベーシック・ドリルを活用した復習、放課後算数教室等での取り組みをさらに推進し、定着を図っていく必要がある。

②「豊かな心」の醸成

〇毎週開催する定例の「学校いじめ対策委員会」や毎学期実施するいじめアンケートの機会などを活用し、いじめの早期発見・早期対応・早期解決を「学校いじめ対策委員会」を中心に図ることができた。

〇「たてわり班活動」の異学年交流を通して、学級・学年を超えたより広い異年齢集団における社会性や良好な人間関係を構築する力を育てることができた。

●いじめの未然防止・早期発見・早期対応・早期解決については、引き続き教員同士の情報共有の充実を図り、組織的に取り組む必要がある。

③「健やかな体」の育成

〇体育科での指導だけではなく、体力向上月間やなわとび週間等の取り組みを意図的・計画的に実施し、児童の体力向上を図ることができた。

●日常的な運動習慣の確立を図るために、休み時間の校庭遊びの奨励、放課後子ども教室等での活動の推進を図っていく必要がある。

④小中一貫教育の推進

〇石川中校区小中学校と連携し、３校合同の「避難訓練」「意見発表会」「あいさつ運動」「合唱交流」の実施、教員同士の授業参観等を行うことができた。

●市学力調査等の情報共有や分析を小中一貫で行い、課題解決を図っていく必要がある。

⑤特別支援教育の推進

〇特別支援教育コーディネーターを中心とした特別支援教育校内委員会を定期的に開催し、特別支援教育の充実を図ることができた。

●通常の学級における配慮の必要な児童の授業の中での支援を充実させる必要がある。

⑥家庭・地域等との連携・協働による教育力の向上

〇学校ＨＰ、学校便りなどの効果的活用による学校情報の発信をすることができた。
の発信をしていくことができた。

●小中一貫の推進を踏まえた地域等との連携を今後図っていく必要がある。

２　次年度以降の課題と対応策

①「確かな学力」の定着「確かな学力」の定着

ア 授業改善の推進

・市学力調査における習得目標問題の確実な定着

イ 校内研究の充実

・Ｉ人Ｉ台の学習用端末の効果的な活用

②「豊かな心」の醸成

ア 組織的な生活指導体制の推進

・学校全体で行動目標を設定し、全校で統一した指導

イ 心の教育の推進

・「いのちの大切さを共に考える日」等での重点的な指導

ウ 健全育成の推進

・「学校いじめ対策委員会」を中心にしたいじめの早期発見・対応

・個票システムを活用した不登校児童の対応　・別室での支援

エ 読書活動の充実

・朝読書や読み聞かせを通した読書活動の推進　・学校司書や図書ボランティアとの連携

オ 異学年交流活動等を通した人間関係調整力の育成

・「たてわり班活動」等での人間関係構築する力の育成築する力の育成

③「健やかな体」の育成「健やかな体」の育成

ア 体力向上の推進

・日常の体育学習における運動量の確保

イ 健康教育の推進

・感染症流行時のうがい、手洗い、マスク着用を励行

ウ 食育の推進食育の推進

・給食主任を中心に学校栄養士及び給食調理員との連携

④ 小中一貫教育の取組

・意見発表会の実施　・市学力調査の分析と課題の共有　・３校合同の避難訓練の実施

⑤ 特別支援教育の充実

ア 特別支援教育コーディネーターを中心とした校内委員会の充実

・定例特別支援教育校内委員会の開催　・外部関係諸機関との連携

イ 特別支援学級及び特別支援教室「こみっきぃ」との連携

・交流及び共同学習の推進　・在籍学級担任への特別支援教育に係る情報提供

ウ 外部関係諸機関との連携

・教育センターとの連携　・子ども家庭支援センターとの連携

エ 保護者への理解啓発

・学校だより等を活用した保護者への理解啓発

⑥ 地域・保護者との連携地

・放課後算数教室、昔遊び等の実施　・放課後子ども教室（きらきら）との連係協力